

問1 山地が沈水したり海面が上昇したりすることで形成された、鋸の歯 (のこぎりの歯) のように複雑に入り組んだ海岸線を何と呼びますか。 (2016年 岐阜公立入試 類似)

1. リアス海岸 2. 海岸段丘 3. 砂州 4. 三角州

問2 2011年に発生した東日本大震災において、地震による海底の急激な動きが海水を押し上げ、沿岸部に甚大な被害をもたらした現象を何と呼びますか。気象条件によって海面が上昇する現象とは区別される名称を選択してください。 (2021年 佐賀公立入試 類似)

1. 津波 2. 高潮 3. 洪水 4. 土石流

問3 長野県長野市と沖縄県那覇市の降水量と気温の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。那覇市の気温の変化を示す折れ線グラフは、長野市のもものと比較して平坦な形状をしています。 (2024年 長野県公立入試 類似)

1. 那覇市はすべての月で降水量があり、気温の年較差が小さい。 2. 那覇市は冬に全く降水がなく、気温の年較差が非常に大きい。 3. 長野市は冬の気温が那覇市よりも高く、気温の年較差が小さい。 4. 長野市は一年中気温が一定であり、那覇市よりも年較差が小さい。

問4 長野盆地などの「中央高地の気候」や、中国山地と四国山地に挟まれた「瀬戸内の気候」に見られる共通の降水量の特徴について、地形と季節風の関係から説明したものと正しいものはどれですか。 (2017年 秋田県公立入試 類似)

1. 夏と冬の季節風がそれぞれ手前の山脈で遮られ、水分を落とした後の乾燥した空気が流れ込むため、年間を通じて降水量が少ない 2. 広大な平野部が広がっているため、季節風が通り抜けやすく、上昇気流が発生しないことから年間を通じて降水量が少ない 3. 寒流の影響を強く受ける地域であり、海面からの水蒸気の供給が不足するため、年間を通じて降水量が少ない 4. 一年中安定した高気圧に覆われる地形であるため、季節風の影響をほとんど受けず、年間を通じて降水量が少ない

問5 日本の山地や地質の構造に関する説明のうち、フォッサマグナの特徴を正しく述べているものはどれですか。 (2024年 大分県公立入試 類似)

1. 日本列島を東日本と西日本に分ける大きな溝状の地帯であり、その西縁は糸魚川・静岡構造線と呼ばれている。 2. 九州から関東地方にかけて日本列島を東西に貫く、世界最大級の断層である。 3. 太平洋のプレートが陸のプレートの下に沈み込むことで形成された、水深6,000メートルを超える深い溝のことである。 4. 飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈の3つの山脈の総称であり、日本アルプスと呼ばれている。

問6 扇状地の土地利用について、扇の中央付近にあたる「扇中央 (せんおう)」では、河川の水が地下に潜り込んでしまう「伏流 (ふくりゅう)」という現象が起こります。この性質が人々の生活や農業に与えた影響を説明したものと正しいものはどれですか。 (2024年 徳島公立入試 類似)

1. 地表を流れる水が乏しいため、かつては集落や水田が作られなかった。 2. 地表に常に水が溢れているため、大規模な水田地帯が形成された。 3. 地下水が浅い場所を通るため、井戸を掘らなくても容易に水が得られた。 4. 水が全く存在しないため、現在でも人が住むことは不可能である。

問7 滋賀県彦根市の地形図において、彦根城跡から「南東」の方角にある佐和山を眺める場面を想定します。地図読解において、彦根城跡から佐和山への「展望」が期待できるかどうかを判断するための根拠として、正しい説明はどれか選びなさい。 (2024年 千葉県公立入試 類似)

1. 彦根城跡と佐和山を結ぶ視線上に、それら二地点の標高よりも高い地点を通る等高線や尾根が存在しないこと。 2. 二地点間の距離を縮尺から計算し、実際の距離が5キロメートル以内であれば、地形に関わらず展望が可能と判断する。 3. 視点となる彦根城跡から見て、対象となる佐和山が「北」に近い方角にあり、逆光の影響を受けないこと。 4. 地形図上の等高線が、二地点の間で等間隔に並んでおり、土地利用が水田として描かれていること。

問8 日本の中部地方から関東地方にかけて広がる地質構造であるフォッサマグナの特徴について説明したものと、最も適切なものはどれですか。なお、この地形は日本列島を南北に分断するように位置しています。 (2026年 愛媛公立入試 類似)

1. 日本アルプスの東側に位置する、古い地層の上に新しい地層が厚く堆積した巨大な溝状の地形。 2. 西日本を東西に貫き、九州から関東まで続く日本最大級の断層帯。 3. 太平洋プレートが陸のプレートの下に沈み込むことで形成された、水深6000メートルを超える深い溝。 4. ユーラシア大陸から吹き付ける季節風の影響を強く受ける、標高3000メートル級の山々が連なる山脈。

答え合わせ・解説

- 問1** **答え 1**
リアス海岸
- 地殻変動による土地の沈降や、氷河期が終わった後の海面上昇によって、かつての起伏の激しい山地の谷の部分に海水が入り込むことで形成されます。福井県の若狭湾や三重県の志摩半島、東北地方の三陸海岸南部などが代表例として挙げられます。選択肢の「海岸段丘」は土地の隆起と侵食、「砂州」は砂の堆積によって作られる地形で、成り立ちが異なります。
- 問2** **答え 1**
津波
- 地震や海底火山の噴火といった地殻変動により、海底が垂直方向に動くことで、その上の海水が一気に持ち上げられて周囲に広がる現象を「津波」といいます。これに対し、台風などの低気圧や強風によって海面が吸い上げられたり吹き寄せられたりして上昇する現象は「高潮」と呼ばれ、発生のメカニズムが根本的に異なります。
- 問3** **答え 1**
那覇市はすべての月で降水量があり、気温の年較差が小さい。
- 那覇市の気候は、黒潮（暖流）の影響を強く受けるため、冬でも気温が下がりにくく、一年を通じて降水がもたらされます。折れ線グラフが平坦であることは、夏と冬の気温差（年較差）が小さいことを示しています。これに対し、長野県のような内陸部は、海から遠いため気温の変化を受けやすく、冬の気温が著しく下がることから、折れ線グラフの上下の幅（年較差）が那覇市よりも大きくなります。
- 問4** **答え 1**
夏と冬の季節風がそれぞれ手前の山脈で遮られ、水分を落とした後の乾燥した空気が流れ込むため、年間を通じて降水量が少ない
- 中央高地や瀬戸内は、周囲を高い山脈や山地に囲まれています。夏は太平洋からの、冬は日本海からの湿った季節風が吹き込みますが、これらの地域に到達する前に周囲の山々で雨や雪を降らせてしまいます。その結果、山を越えてきた乾燥した空気が流れ込むため、他の地域に比べて年間の降水量が少なく、晴天の日が多くなります。これは日本の地形的要因が気候に与える代表的な例です。
- 問5** **答え 1**
日本列島を東日本と西日本に分ける大きな溝状の地帯であり、その西縁は糸魚川・静岡構造線と呼ばれている。
- フォッサマグナは、単なる一本の線ではなく「帯（ゾーン）」としての広がりを持っており、その中に新しい地層が堆積しています。この地帯を境に、東日本と西日本では古い地層の分布や地質構造が大きく異なります。選択肢にある「九州から関東を東西に貫く断層」は中央構造線、「太平洋の深い溝」は日本海溝、および「3つの山脈の総称」は日本アルプスを指しており、それぞれフォッサマグナとは異なる地理的要素です。
- 問6** **答え 1**
地表を流れる水が乏しいため、かつては集落や水田が作られにくかった。
- 扇状地の中央部（扇央）は堆積した砂礫の層が厚いため、河川が地下を流れる「伏流」が起こり、地表で水を得ることが困難でした。そのため、古くからの集落は水が得やすい扇頂（山からの出口）や、伏流水が湧き出す扇端（扇の縁）に発達し、扇央部分は主に林や果樹園として利用されてきました。現代では上水道の整備により住宅地としても利用されています。
- 問7** **答え 1**
彦根城跡と佐和山を結ぶ視線上に、それら二地点の標高よりも高い地点を通る等高線や尾根が存在しないこと。
- 地形図上で「展望（見えるか見えないか）」を判断する際は、視点と対象物を結ぶ直線（視線）が、途中の地形によって遮られないかを確認します。具体的には、二地点を結ぶ直線上に、その視線よりも高い標高を示す等高線（山や尾根）がある場合、視界が遮られるため展望は不可となります。方位や距離、土地利用だけでは展望の可否を断定することはできません。
- 問8** **答え 1**
日本アルプスの東側に位置する、古い地層の上に新しい地層が厚く堆積した巨大な溝状の地形。
- フォッサマグナは日本列島の中央部に位置する巨大な溝状の構造です。かつて海だったこの溝に、新しい時代の火山噴出物や土砂が厚く堆積して現在の地形が作られました。選択肢にある中央構造線は西日本を東西に走る断層であり、日本海溝は海底の地形、日本アルプスは険しい山脈を指すため、地質的な「溝」であるフォッサマグナの説明とは異なります。